

Mifa



No. 39

6/25. 2004

Moriya International Friendship Association

MIFA NEWS

守谷市国際交流協会広報委員会発行

事務局 住所：守谷市大柏950-1
電話：0297-45-1111

URL: <http://www.fureai.or.jp/~mifa>



2004.3.21 スーダン共和国大使講演会

上=ムサM. オマール サイド大使
右=師岡カリマ・エルサムニー女史

3月21日、第11回「世界を知るシリーズ」スーダン共和国大使講演会が、ログハウスで行われました。

今回は「スーダンの歴史・文化とアラブの詩人」のタイトルで、大使講演のほかに、アラビア語講師のカリマ女史による講演も行われ、女史からは、アラビア語の美しさ、難しさに触れながら、歴史を彩るアラブの詩人たちを紹介されました。

歴史・文化の紹介の後でのカリマ女史の講演により、一層スーダンが身近な国に感じられ、意義ある講演会になりました。

※大使講演の要旨は4頁に載せています。



2004年度 MIFA 総会

2004年度守谷市国際交流協会（MIFA）総会が、5月16日、ログハウスで行われました。

会長の挨拶、来賓として出席された会田市長の挨拶の後、議事に入り、2003年度活動報告および決算、2004年度事業計画および予算が、それぞれ承認、可決されました。また、青年交流委員会委員長の変更に伴う役員の変更が報告され、2003年度急遽決まった「JICA草の根支援事業（通称ラオス・プロジェクト）」の2003年度事業報告が行われました。

総会終了後、青年海外協力隊に参加した高橋歩氏から、派遣先のベトナムについての報告、JICA主催のカンボジアスタディーツアーに参加した青年交流委員会の鈴木良介君からの報告がありました。

その後茶話会で会員の親睦を深め、閉会しました。



2004年度予算（収入）

科目	予算額(円)	備考
会費及び補助金	2,620,000	年会費/守谷市国際交流基金・自治体国際化協会
事業収入	1,755,000	語学講座・コンサート参加費など
雑入	17,000	預金利子など
繰越金	275,192	前年度繰越金
合計	4,667,192	

小川会長挨拶

皆さん、こんにちは。

MIFAは昨年いろいろな事業を展開してきました。その中にラオス・プロジェクトがあります。これは、地域からの提案をJICAがODA予算を使い、資金的にバックアップするというもので、MIFAでは、交流があるラオスの人材育成の一環として、ルアンプラバンの教師を日本に招聘して、国造りに生かしてほしいということで提案しました。まさか、すぐに提案が通るとは思っていなかったのですが、これまでのMIFAの活動、実績が評価されたのか、昨年末に国から承認され、今年早々から事業を行ってきました。16年度もすでに国から内示があり、3カ年継続ということで、17年度まで予定をしています。

今年の夏休み期間中に、研修の受入先だった守谷高校の先生方を含め、ラオスに行きたいという声もあります。MIFAもさまざまな活動を行っていて、戦線が伸びきっていますから、マンパワーがほしい。今日来られた方の中でラオス・プロジェクトに参加してみたいと思われる方がいらしたら、うれしく思います。

MIFAの活動をホームページで見て、近隣市などからMIFAを視察したいという要望がたくさんきます。直近では竜ヶ崎市からあり、土浦市は昨年に続き、今年秋に再度来訪したいという要請もあります。これも協会の皆さんが、それぞれの委員会の中で、いい仕事をしている結果だと思っています。

ありがとうございました。



2004年度予算（支出）

科目	予算額(円)	備考
事業費	3,996,000	各専門委員会事業
旅費	100,000	交通費
役員費	65,000	保険料
事務費	459,000	事務用品・郵送料
備品購入費	20,000	物置き塗装・棚
繰出金	20,000	周年・記念事業準備基金など
予備費	7,192	
合計	4,667,192	

高橋歩氏講演会 「協力隊員から見たベトナム」



高橋歩氏は、2000年7月から2003年7月までの3年間、ホーチミン市文化芸術大学文化観光学科で、旅行業のマーケティングと日本人観光客の心理、観光客を想定した日本語の教育を担当されていました。

講演では、ベトナムの概要と地理、歴史、通貨や観光地などを紹介するとともに、青年海外協力隊員としての現地での生活を、観光客（通過者）としてではなく、生活者の視点で報告されました。

特に印象に残った言葉としては、「未だにベトナム戦争の影響が感じられる」と話されていたことでした。



JICA草の根技術協力地域提案型研修 15年度ラオス・プロジェクト終了

2月から始まったラオス・プロジェクト(ラオス国ルアンブラバン県高等学校教員等に対する研修コース)も3月29日の最終報告で無事終わりました。

関係された方々に厚くお礼申し上げます。

研修を受けたお二人の最終報告の概要を掲載します。

ブンコン・クッタオ

(ルアンブラバン県こども文化センター所長)

1) 研修目的

高校教育について総合的な知識を身に付けること・日本の高校教育の実際面を学ぶルアンブラバン県の高校で適用を図ること・守谷市国際交流協会が行っている活動、地域の活動を学ぶこと(ボーイスカウト他)・守谷市の学校間、地域社会での連携活動を学ぶこと・ルアンブラバン県と守谷市の友好を促進すること

2) 研修で学んだこと

守谷高校で学んだ点をルアンブラバン県の高校で活用したい(管理職のマネージメント・毎朝の授業前の職員会議・教員の教える技術・クラブ活動・規則正しく計画性があること・地域の活動)

3) 帰国後にラオスで実施したいこと

小学生を対象にした史跡を見るスタディツアー・郷土愛の醸成・芸術活動・陶芸・グループ活動を通じた協調性の育成・ラオスの伝統音楽を学校教育の中で大切にすること

4) 帰国後の実施計画

研修で得たことをラオス外務省、情報文化省、教育省に報告する・ルアンブラバン県の教育関係の会議で報告する・ルアンブラバン県の高校の校長に報告する

5) 来年度の研修に向けた提言

ルアンブラバン県こども文化センターの生徒と教員を今後も支援願いたい(3年間)・研修は3カ月間をお願いしたい(日本語1カ月・ホームステイ1週間・守谷高校研修3週間・小中学校研修3週間・日本の史跡の見学)



2月26日、守谷高校で生徒にラオスを紹介

ブアバン・チャンケオ

(ルアンブラバン教員養成短期大学英語部長)

1) 教育現場視察

視察先=守谷高校・土浦一高・常総学院中学校・愛宕中学校・郷州小学校・水海道幼稚園・保育園・児童館・公文教室・給食センター・ボーイスカウト
授業見学=英語・化学・習字・数学・世界史・音楽・美術・家庭科・古文

2) 美術工芸ワークショップ視察

ひょうたん・陶芸ワークショップ・守谷市民による美術展・千葉県房総の村・京都・奈良・奈良井の史跡・ボーイスカウト活動・取手大利根ライオンズクラブ・人形劇



3) 帰国後にラオスで実施したいこと

新しく学んだことを会議で報告する・短期大学の教員及び3年生を対象に短期セミナーを開催する・青少年団体、女性団体、貿易組合等で日本で学んだことの活用を図る

4) 来年度の研修に向けた提言

ルアンブラバン高校やこども文化センターの生徒と教員を今後も支援願いたい・可能ならばSouphanouvong大学の教官の日本での研修をお願いしたい。



3月29日、JICAつくばセンターでのファイナル・レポート

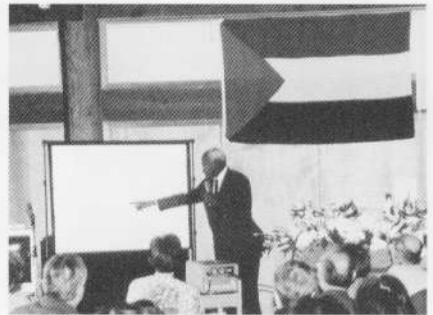


3月5日、橋本県知事表敬訪問



3月4日、郷州小学校での授業参観

スーダン大使講演会



私は1970年に日本に生まれました。当時は留学生も1,000人くらいと少なかったし、その時は、外国人はアメリカ兵かと思われていました。今、日本が国際化しているのに驚いています。どこに行っても日本人は世界を知りたいと。私自身北海道から沖縄まで行ってない県はないし、主な日本の町に行ってきました。その中で自分の持っている文化が分かってきました。それは、比較するものがないと分からないからで、そのようなときに自国の文化の素晴らしさが分かると思います。もし、日本の文化を無視して異文化だけを勉強しようと思ったら、大間違いですね。残念なことに日本の若者は日本に何も無いような、よその文化、よそのことだけ勉強している人がいるように思います。しかし、日本の文化は素晴らしいところがたくさんあります。自分の文化が素晴らしいと思いながらよその文化と交流できれば、生活も楽しくなると思います。

私の国は「小さなアフリカ」と言えると思います。人種のるつぼで、アフリカの皆さん全員が自由にスーダン人になることができます。言葉でいったらアラビア語ですが、話さなくてもスーダン人になれます。背が高い人、低い人、目が青い人、黒い人、すべてスーダンにいます。

気候的には雨量が年間0から1,800ミリまで、砂漠もあるし沼地もあります。国が大きいことをうらやましく思うかもしれませんが、大きいことは大変なことです。日本は海に囲まれているから海を渡って人が来ます。スーダンもヨーロッパの植民地時代に国境線を引かれました。だから国境は、そこに住んでいる住民とは関係がありません。目の前にいとこが住んでいてもそこは別の国で、別の国籍を持っている。そこへ行ってはいけなるとは誰も言えません。今、国境でトラブルとか内戦というより、対立があるかもしれませんが、それは植民地時代に引かれた国境が問題なので、ヨーロッパの政策が原因になっていると思います。今皆さんの耳に入るのは、内戦とか飢餓とかでしょう。実際に資源は豊かなのですが国民は貧しい。なぜ貧しいかという、結局、よその人間が間にはいって、政治とか経済を握っている。昔の話ですが、隣のチャドに行くのに、スーダンからロンドンに行って、ロンドンからパリ、パリからチャドに行っていました。今なら1時間30分で行けます。

スーダンの国名はどこからきたかという、ギリシア時代、エジプトの南とスーダンの北部はエチオピアと呼ばれていました。エチオピアは「ヌーピア（顔が太陽で焼かれた人々の地域）」と呼ばれていました。それをアラビア語に直してスーダンになりました。スーダンはアラビア半島から紅海西寄り、セネガルまで、全部スーダンです。東が英国スーダン、チャドからセネガルまでがフランス・スーダンと言いました。たまたまスーダン、ほかの国より先に独立したからスーダンという国名をとって、あとの国はチャドとかマリ、ニジェールになりました。もう一つ、アフリカという言葉ですが、もともとチェンニアとリビアの間の小さな地域の呼び名でした。モーリタニア、スーダン、エチオピア、アフリカ、すべて黒人の国という意味です。

スーダンはほとんどが平坦で、標高差は370メートルし

かありません。360度見渡せます。ですから、水さえあればすぐ畑ができます。しかし、利用しているのは10パーセントまでいっていません。それでも3,200万エーカーあり、日本の農地面積が900万エーカーですから、その3.5倍。なおかつ90パーセントが遊んでいます。もったいない話で、アフリカの貧困とか飢餓という話がありますが、これからアフリカも自助努力を発揮しないと発展しないと思います。

スーダンは、91年から管理経済から市場経済に移り、経済は良くなっています。スーダンは産油国で、硫黄分が少ないから日本にほとんど輸出しています。スーダンは食料が足りない。その理由は、流通の問題です。スーダンには100年以上の歴史がある鉄道がありますが、国が広いから作ったものを十分運べない。道路整備とか流通をうまくいくようにしないと、ものはできても運ぶのに費用がかかり高くつきます。よその国で作った農産物のほうが安く手に入ることもあります。

もう一つの問題は畜産で、スーダンはアフリカで最も家畜を飼育しています。少なくとも1億4,000万頭います。これがスーダン中部に集まっています。自然放牧だから自然破壊につながります。草や水があればいいのですが、ない場合は移動しなければならない。移動すればトラブルが起きる。昔は杖と刀だったのが、今は銃、ロケット砲まで持っています。それを押さえるためには井戸が必要です。今、日本のODAでたくさん作ってもらっています。アラブ諸国は肉が必要で海外から輸入しています。流通が良くなれば、食肉をアラブ諸国に輸出できるようになります。

スーダンはアフリカで最も古い歴史・文化を持っています。スーダンとエジプトは一つの地域、文化と言っても良いと思います。南のほうはピラミッドの文化を大切にしていました。エジプトは国家事業として強い権力者でないと造らなかったもので、規模が大きく数は少ない。スーダンでは貴族も造りました。だからスーダンには1,000近いピラミッドがあります。ピラミッドは日本でいえば神輿に近いと思います。川が氾濫しないようにとエジプトでは「乙女」を川に流しましたが、スーダンはピラミッドを造って流しました。

(この後、スライドを使い観光・文化・風俗などを紹介) ご了承、ありがとうございました。

2004年度専門委員会委員長

総務委員会	久保 昌也	☎45-4390
都市交流委員会	尾崎 和恵	☎48-8393
語学研修委員会	竹下 明子	☎46-2150
広報委員会	小野 泉	☎48-3917
ログハウス委員会	吉田 篤子	☎45-2375
青年交流委員会	猪飼万由子	☎45-6600
日本語講座委員会	根本ひとみ	☎45-1569